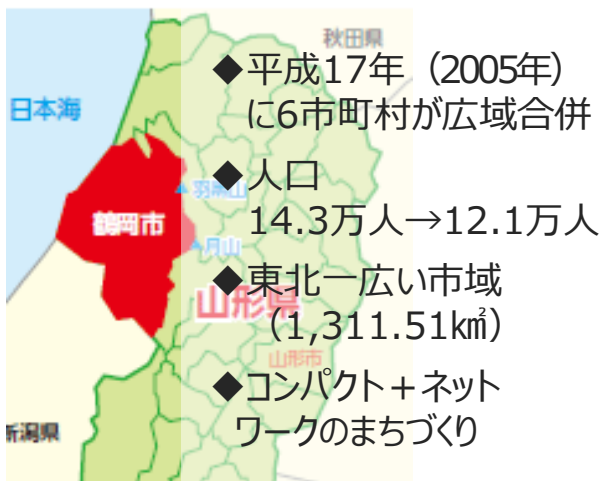


創造と伝統のまち 鶴岡市の挑戦



藤島地域

エコタウンのまちづくりの推進
つや姫発祥の地
庄内一のイルミネーション
藤島歴史公園「Hisu花」



羽黒地域

日本遺産に認定

出羽三山（五重塔）
サムライゆかりのシルク



鶴岡のまちづくり

学術・教育・文化の振興



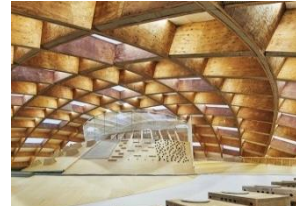
庄内藩校
致道館
個性伸張の教育

民間活力の伸長

・スイデンテラス



・キッズドームSORAI



成長エンジン → 新産業創出・Society5.0・SDGs…

高等教育研究機関

Institute for Advanced Biosciences
Keio University
慶應義塾大学先端生命科学研究所
国立研究開発法人
国立がん研究センター
鶴岡連携研究拠点
山形大学農学部
東北公益文科大学大学院
鶴岡工業高等専門学校
国立研究開発法人 理化学研究所
環境資源科学研究センター

研究環境・
成果の提供

研究資金や
社会実装で
フィードバック

ベンチャー企業・ 事業の創出 地域の中核産業へ

ヒューマン・メタボローム・
テクノロジーズ（HMT）
Spiber
サリバテック
メタジェン
MOLCURE
インセムズテクノロジーズ
ファルメクス
など



研究開発等の基盤整備・コーディネート

〔農業〕（R4）

▶ 農業産出額
278億円（県内1位）
▶ 日本で初めて
ユネスコ食文化創造
都市に加盟



〔商業〕（R3）

▶ 卸・小売業
年間販売額
1,974億円（県内3位）
卸売業 793億円
小売業 1,181億円

〔工業〕（いずれもR4）

▶ 製造品出荷額 5,836億円
（県内1位）
粗付加価値額 3,826億円
（県内1位）
▶ 主な企業（主力製品）
・ウエノ（トロイダルコイル）
・SONY（CMOSセンサー）

櫛引地域

伝統芸能
黒川能



フルーツの里



朝日地域

豊かな森林資源 湯殿山スキー場



温海地域

千年の歴史を有する
「あつみ温泉」
伝統的工芸品
「しな織」



◇ 2024年版 住みたい田舎ベストランキング（宝島社） 3部門（総合部門、若者世代・単身者部門、子育て世代部門）東北エリア2位（人口10万人以上20万人未満の市）

◇ 2020年訪れたい地域「東北」が3位 東北での体験「出羽三山」が1位（Doriponett）

◇ 2019外国人が訪れるべき日本の観光地ランキング 8位（Gaijinpot）

鶴岡サイエンスパークの取組

バイオサイエンスを核としたまちづくり

- 知的・創造的努力の積み重ねで築かれてきた鶴岡
旧庄内藩校「致道館」に象徴される学びの気風。戦後も「山形大学
農学部」や「鶴岡工業高等専門学校」など、時代に即した高等教育
研究機関を開設
- 次の時代のための基盤づくり
地域人口の減少が進むなか、次の時代を担う人材と魅力ある産業
を育てる基盤づくりのため、1996年から庄内地方の市町村と山形県
による大学整備プロジェクトがスタート

学術産業都市の構築をまちづくりの柱に



2001年（H13年）
慶應義塾大学先端生命科学
研究所の開設が実現

慶應先端研の研究活動により、
ベンチャー企業や研究機関が集積
「鶴岡サイエンスパーク」が発展



（慶應先端研開設当時の鶴岡サイエンスパーク）

慶應義塾・県・市の三者連携による プロジェクトの推進

- 協定に基づき、三者共同で研究教育活動を推進
鶴岡市と山形県は、協定に基づき慶應先端研の研究教育活動を
補助金（県と市合わせて毎年7億円）で支援するとともに、バイオ
クラスター形成を推進

協定に定められたそれぞれの役割

（慶應義塾の役割）

- ①世界的なバイオ研究拠点の形成に向けた研究教育活動の展開
- ②山形県や鶴岡市と連携した地域活性化の取組

（鶴岡市及び山形県の役割）

慶應先端研の研究教育活動について支援を行うとともに、研究成果等
を積極的に活用した多様な地域活性化を図る。



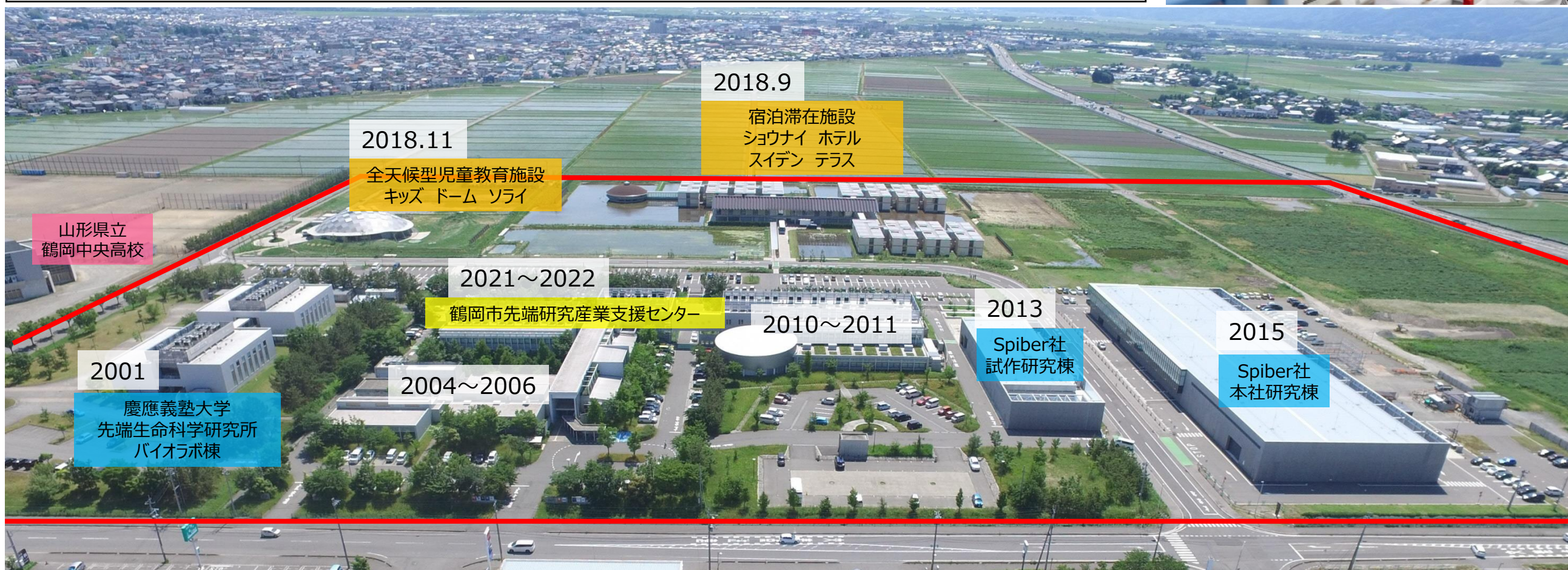
2024年3月、第6期目の
協定を締結
（協定期間 2024年～2028年度）

鶴岡サイエンスパークの整備経過

➤ 鶴岡サイエンスパーク（21.5ha）の整備経過

拠点法に基づく基本計画にサイエンスパークを位置付けて開発を行っており、2001年の慶應義塾大学先端生命科学研究所（バイオラボ棟）の開設から始まり、市が運営するレンタルラボ、Spiber社の研究棟、宿泊滞在施設、児童教育施設が立地している。現在では、**研究者やベンチャー企業のスタッフなど約600名が働くエリアとなっている。**

2001年	慶應義塾大学先端生命科学研究所バイオラボ棟
2004～2022年	鶴岡市先端研究産業支援センター（レンタルラボ）
2013年	Spiber社試作研究棟（Spiber社で整備）
2015年	Spiber社本社研究棟（Spiber社で整備）
2018年	宿泊滞在施設 ショウナイホテル スイデンテラス（SHONAI社で整備）
同 年	全天候型児童教育施設 キッズドーム ソライ（SHONAI社で整備）



バイオクラスター形成に向けた鶴岡市の取組

◇ 市先端研究産業支援センターの整備

- 企業や大学、研究機関に貸室を提供し、研究成果の産業化を支援



供用開始：H17：A棟（3室）、B棟（6室）
 H18：C棟（20室） 共用棟含む
 H23：J棟（5室）、D棟（26室）
 H29：B棟（1室）
 H30：E棟（1室）
 平成30年度まで合計62室を整備

- 入居状況
 慶應先端研、理化学研究所、国立がん研究センター、
 山形大学、鶴岡高専、ベンチャー企業各社
 などが入居し、満室状況が続いていた

- 市先端研究産業支援センターの新棟（F棟）を増築
 令和2年度からの3か年事業で、市先端研究産業支援センターの
 拡張（新棟増築）を実施
 概要：国の地方創生拠点整備交付金の採択を受け、新棟
 を建築
 規模：2階建、建築面積1,100m²
 延床面積2,200m²
 機能：レンタルラボ20室
 コミュニケーションラウンジ等
 供用：令和4年11月開始



◇ 地域企業・産業との連携

- 山形県と連携し、慶應先端研と地元企業との共同研究による
 新商品の開発や事業化を支援
 コーディネーターの配置、助成事業による支援
 →助成事業の総採択件数100件超（H24～）

（採択例）エルサンワイナリー松ケ岡(株) H30～R3

■テーマ
 松ケ岡地域で栽培されたワイン用ブドウの醸造
 方法の最適化研究 （写真 鶴岡甲州・フルフル）



◇ 地域理解・交流の促進

- 鶴岡サイエンスパークの地域理解の促進と市民・地元企業との
 交流を図るため「鶴岡サイエンスパークまつり」を初開催

- ・地元商工会議所、（一社）鶴岡サイエンスパーク、慶應先端研などと共同で開催
- ・各施設を開放し、研究体験や企業との共同事業の展示、研究者によるトークセッションなどを実施
- ・家族連れを中心に約2,300人が来場



◇ 国立がん研究センターとの連携

- 国立がん研究センター、慶應先端研、山形県及び鶴岡市が四者
 協定を締結し、がんメタボローム研究分野の研究拠点を設置

慶應先端研が有する世界最先端の
 メタボローム解析技術を活用し、がんの
 診断薬や解析技術等の開発に向け、連
 携して研究を実施



鶴岡サイエンスパークが鶴岡市にもたらしている効果

◇ 高等教育・研究機関の集積による効果

➤ バイオベンチャー企業等の誕生、研究機関・企業の誘引

- ・バイオベンチャー企業等が8社誕生し、着実に事業展開
- ・理化学研究所、国立がん研究センターの進出
- ・大手保険会社などの連携拠点設置



国立がん研究センター連携研究拠点

➤ 国立がん研究センター東病院と鶴岡市立荘内病院との医療連携による地域医療の高度化

東病院の医師によるセカンドオピニオンの実施、東病院の専門医の診療を受けることができるオンライン診療システムの整備等



国立がん研究センター東病院



鶴岡市立荘内病院



➤ 慶應先端研「特別研究生」制度

ノーベル賞級の研究を行う科学者が地元から誕生するように、科学を学ぶ地元高校生を支援する教育プログラム

- ・2011年度から2024年度まで200名超が活動

(特別研究生の主な成果)

- 高校生バイオサミットin鶴岡で農林水産大臣賞受賞(2022.8)

「雑食性の魚を誘引する低分子物質の探求」

- 日本癌学会学術総会で発表(2019.9)

「シナモン抽出物のガン細胞転移抑制効果の検証」

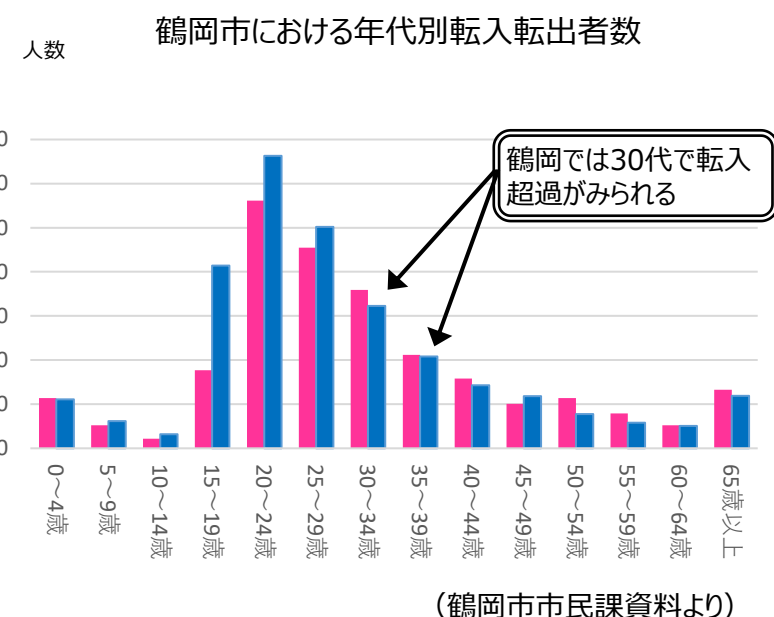
◇ 若者の定着

➤ 若者の定着

令和5年度、鶴岡市では、30代で転入超過になっている。

➤ ベンチャー企業による若者の雇用

サイエンスパーク内のベンチャー企業で働く人の半数以上が40歳未満。地元(庄内)以外の出身者が約6割



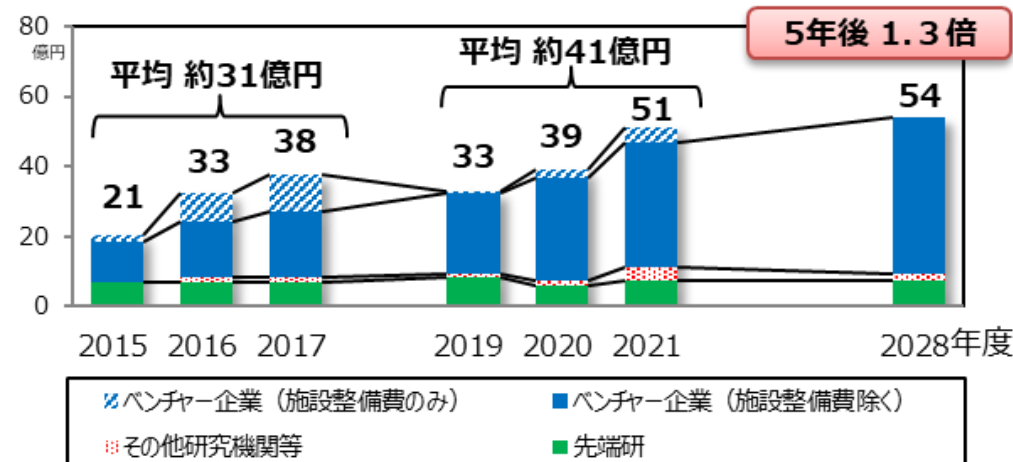
◇ 地域経済への好影響

➤ 本市への地域経済波及効果

**サイエンスパーク内で600人弱の雇用
年間41.6億円※の経済波及効果**

➤ サイエンスパークの経済波及効果予測※

サイエンスパークの経済波及効果は、5年後には現状の1.3倍になると推計



※2024年3月 山形銀行の調査分析結果より